

## 第4回 小石原川ダム環境保全対策検討委員会 議事要旨

日 時：平成28年3月23日（水）13：30～16：00

場 所：独立行政法人水資源機構 朝倉総合事業所 1F 大会議室

出席者：（委員）古賀委員長、荒井委員、飯田委員、小野委員、広渡委員、松井委員、  
真鍋委員、山根委員

（事務局）20名

（オブザーバ）朝倉市、東峰村、国土交通省九州地方整備局筑後川河川事務所、  
工事関係者

資 料：

議事次第

資料－1 第4回小石原川ダム環境保全対策検討委員会 出席者名簿

資料－2 小石原川ダム環境保全対策検討委員会 設立趣意

資料－3 小石原川ダム環境保全対策検討委員会 規約

資料－4 小石原川ダム環境保全対策検討委員会 委員名簿

資料－5 小石原川ダム環境保全対策検討委員会の公開方法について

資料－6 第3回小石原川ダム環境保全対策検討委員会 議事要旨

資料－7 第4回小石原川ダム環境保全対策検討委員会 説明資料

審議内容等：

### 1. 事業の進捗状況について

小石原川ダム建設事業の流れ、工事進捗状況と平成28年度工事予定、事業全体の予定工程について事務局より説明し、委員会として内容を確認した。

### 2. 前回委員会の審議結果について

前回委員会の意見等について事務局より説明し、委員会として内容を了承された。

### 3. 保全対策等の取組みについて

生息環境等の整備、植物の重要な種、動物の重要な種、大気環境、水環境、環境に配慮した取組みについて事務局より説明した内容を審議した結果、説明内容について了承された。審議において委員会から出された意見は次のとおり。

- ・生息環境等の整備内容が具体的になってきたので、今後は維持管理のことも含めるなど将来を見据えた検討を進めた方が良い。
- ・生息環境等の整備については、計画の段階から関係自治体等にも参画してもらうなど協働で検討を進めていくと良い。
- ・生息環境等の整備について、沢水を活用するなど、食物連鎖が維持される工夫が必要である。
- ・湿地環境では、イノシシが地面の掘り返しを行うこと（いわゆるヌタ場の形成）が、両生類の産卵する水溜りの創出に寄与する場合がありますので、自然をうまく用いた維持管理方法も考慮し

たほうが良い。

- ・オオムラサキが樹液を吸いに集まることをねらって整備するクヌギ林では、植栽後に下草刈りなどの里山的な管理を行うと良い。
- ・栗河内地区における生息環境等の整備について、湿地環境の整備など現在計画しているもの以外の整備目標も追加検討すると良い。
- ・植物の重要な種については、選定された移植候補地で移植を実施していくことで良い。
- ・コキクガシラコウモリについては、整備した代替横抗の利用が期待される。今後、現在利用されている地質調査横坑を塞ぐ時期についても検討すると良い。
- ・工事の本格化に伴い、工事実施区域周辺における粉塵や騒音による動植物への影響が懸念されるため、調査箇所を広げるなど今後検討したほうがよい。
- ・近年、江川ダム水質の状況に変化がみられるため、小石原川ダムは管理移行後に水質保全対策を実施するのではなく、アオコの発生を想定し、建設段階から曝気循環設備の設置が必要と考える。このため資料7の「曝気循環設備等の水質保全対策の議論が必要。」と記載されているが、「の議論」を削除し、「曝気循環設備等の水質保全対策が必要。」と修正すること。

#### 4. 専門部会の報告について

- ・モニタリング対象としているクマタカ5つがいの繁殖状況を報告した。
- ・クマタカ検討部会で定めた「今後の工事計画と保全対策の方針」及び「今後のモニタリング調査の方針」を報告した。特に「保全対策の基本方針」として、ダム本体建設関連工事である原石山伐採に着手以降の工事の進め方について部会です承されたことを報告した。

#### 5. 地域連携について

朝倉総合事業所長より、今後とも地元の朝倉市、東峰村と連携しながら、事業推進、事業区域一帯の環境保全・整備に取り組んでいきたい旨の説明があり、朝倉市、東峰村の出席者から以下のコメントが寄せられ、複数の委員から、積極的に対応して頂きたいとの意見があった。

朝倉市) コア山跡地に樹林地を復元することにより、より良い自然環境、景観が保全・整備されると期待している。出来上がった後の「管理」が課題と考えられるため、今後、地元企業等との連携についても検討していきたい。

東峰村) 水浦の建設発生土受入跡地に緑地・園地を整備するという検討を進められていることに感謝する。新たな水循環を整備する場所においては、土砂の流入・堆砂等の課題があると考えられるが、整備時や維持管理を工夫することで対応できるのではないかと考える。維持管理等の検討については東峰村としても協働していきたい。利活用においては、ダム湖の湖面利用も検討されたい。手漕ぎボート等のレクリエーションが展開できると良いのではないかと考えている。

以 上